

北海道企業局工業用水道事業経営評価委員会議事要旨

〔日時：平成 24 年 11 月 16 日(金)14:00～15:37〕
〔場所：企業局大会議室〕

(開催要領)

- 1 開催日時：平成 24 年 11 月 16 日(金) 14:00～15:37
- 2 開催場所：北海道企業局(道庁別館 10 階)
- 3 出席委員(五十音順)
委員 安達 陽子 安達中小企業診断士事務所 所長
委員 原田 実 株式会社北海道二十一世紀総合研究所 取締役業務総括担当
委員 平池 暁 北海道経済連合会 総括部長
委員長 湊 孝康 NPO法人遺伝子栄養学研究所 理事
委員 村上 淳 株式会社道友エージェンシー 代表取締役社長

(次第)

- 1 開会
- 2 議事
(1) 室蘭地区工業用水道耐震化事業の事前評価について
(2) 平成 23 年度決算の状況について
(3) 全国の他工業用水道事業との経営状況比較について
(4) 需要開拓の取組状況について
(5) 地方公営企業会計制度の見直しについて
(6) 工業用水道料金算定要領について
- 3 その他
- 4 閉会

【意見等要旨】

(事務局より資料の説明後、委員から次のとおり意見等があった。)

- 1 室蘭地区工業用水道耐震化事業の事前評価について
 - 費用便益からみても本事業計画は妥当である。しかし、社会経済情勢の変化を見極めながら需要変動に応じた費用便益の算出などの備えも必要である。
- 2 平成 23 年度決算の状況について
 - 平成 10 年度以来の黒字となったことは評価する。これからも継続して経営改善に取り組んでほしい。
- 3 需要開拓の取組状況について
 - ペットボトル製造の際には、製造費用やロット数の問題もあり道外の製造業者になったと思うが、道内の製造業者も活用すべきだったと考える。
- 4 地方公営企業会計制度の見直しについて
 - 民間であろうと役所であろうと企業という形は同じであるので制度の見直しは望ましい。基本にあるものは競争原理であり、我々の今の経済社会ではそれによって活性化される。
 - 運用の中で「時間」と「雇用」がポイントとなる。時間というのは、例えば「減損会計」などにおいては、実際の運用は民間の企業会計と相違するところが相当あるので、慎重に経過を見ながら検討する必要があるのではないか。
 - 人員のあり方についても、ワーキングシェアなどを念頭において財務上の効率化と同じレベルで考えていかないと簡単にはいかない。また、社会的責任がある公営企業と利益を追求する私企業では基本的に少し目的や考え方が違うので、そこを深く理解した上での運用が必要となるのではないか。